≪愛知県議会　会議録より≫

2017.12.12振興環境委員会　振興部

**あいち航空ミュージアムについて**

【下奥奈歩委員】
　あいち航空ミュージアムでの零戦の展示について、事前の説明がなく新聞報道で知ったが、事前に説明すべきではなかったのか。

【航空対策課主幹（企画）】
　零戦は、三菱重工業株式会社小牧南工場の史料室に展示されていたものである。本年５月に三菱重工業株式会社が、小牧南工場の史料室を閉鎖し、大江工場に新たに展示施設を建設することを発表したため、移設までの間、あいち航空ミュージアムで展示するために借りることを要請し、交渉を進め、最終的に全ての調整が整ったのが10月末であった。決定後、すぐに発表した。

【下奥奈歩委員】
　この問題だけでなく、議員への説明よりも報道が先行することは、議会の形骸化につながるおそれがある。零戦の展示は産業観光ではない重大な問題があると思うため、零戦に対する県の歴史認識を改めて伺う。
【航空対策課主幹（企画）】
　零戦は本県で製造された機体であり、現在の航空機産業の礎を築くとともに、この地域が日本で随一の航空機産業の集積地として、我が国の航空機産業をけん引する役割を担うことにつながったと考えている。一方で、多くの若者の命を失ったという歴史があることは忘れてはならないと思っている。この展示を通じて今一度、平和への思いを新たにし、改めて平和や戦争について考える貴重な機会になることを願い、零戦を展示している。

【下奥奈歩委員】
　あいち航空ミュージアムの零戦の展示における「平和への願い」と題した文章の全文を読み上げてほしい。

【航空対策課主幹（企画）】
　零戦展示の紹介文は「平和への願い」として「戦後70年以上が経過し、今を生きる私たちには、悲惨な戦争の教訓を次世代に語り継ぐ責務があります。展示資料である零戦は、かつて日本が誇った技術でもあり、多くの若者の尊い命が犠牲になった悲しむべき特攻という歴史的な事実を背負うものでもあります。私たちは、この零戦を前に、今一度平和への思いを新たにし、改めて平和や戦争について考える貴重な機会となればとの願いをもって展示するものです」である。

【下奥奈歩委員】
　零戦は、中国への侵略戦争にも参戦し、戦争末期には神風特別攻撃隊として自殺攻撃を行う際の主な機種であった。第二次世界大戦時の殺人兵器というべきものである。日本とともに第二次世界大戦で侵略国となったドイツのワイツゼッカー元大統領は「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在に対しても盲目となる」と演説した。日本の侵略戦争、植民地支配にどう向き合うかという問題は、国際社会、とりわけアジア諸国との関係で、絶えず日本が問われ続ける課題である。過去の戦争への反省がないままに零戦を展示することは侵略戦争の美化につながると考える。県は侵略戦争をどう認識しているのか。零戦の展示は、侵略戦争を美化する立場での行動として許されるべきではなく、直ちに取りやめるべきではないか。

【航空対策課主幹（企画）】
　零戦の展示に関する本県の認識についての質問と受け止めて答弁する。零戦は本県で製造された機体であり、現在の航空機産業の礎を築くとともに、この地域が日本で随一の航空機産業の集積地として、我が国の航空機産業をけん引する役割を担うことにつながったことから、ミュージアムにふさわしいと判断した。一方で、零戦には、多くの若者の命を失った歴史があることも忘れてはならない。展示資料である零戦は、多くの若者の尊い命が犠牲となった特攻の歴史的事実を背負うものであり、こうした悲惨な戦争の教訓を次世代に語り継ぐ責務があると考えている。今一度、平和への思いを新たにし、改めて平和や戦争について考える貴重な機会になることを願い、零戦を展示している。

【下奥奈歩委員】
　零戦の展示に関する認識を質問したのではない。侵略戦争についての県の認識を伺う。

【航空対策課主幹（企画）】
　この質問には答えられない。これまでの答弁以上の答えはない。
【下奥奈歩委員】
　過去を反省しない者がもの作り、観光振興とうたい零戦の展示を行うのは、余りにも無責任な姿勢で、知事の姿勢が問われる。侵略戦争を美化するような行為は、戦争の惨禍を繰り返さないと日本国憲法前文で明記した国民の決意に背くものである。
　そして、零戦だけでなく、日本の名機100選の展示では、機体の形体の素晴らしさや、技術の称賛のみが記載されており、過去の戦争の被害や負の歴史の説明が不十分である。
　県民が県営名古屋空港に期待するのは日本国憲法第９条を基本に据えた平和・利便・地域振興につながる機能の充実である。侵略戦争の美化や軍事産業の支援につながるものには賛成できない。